

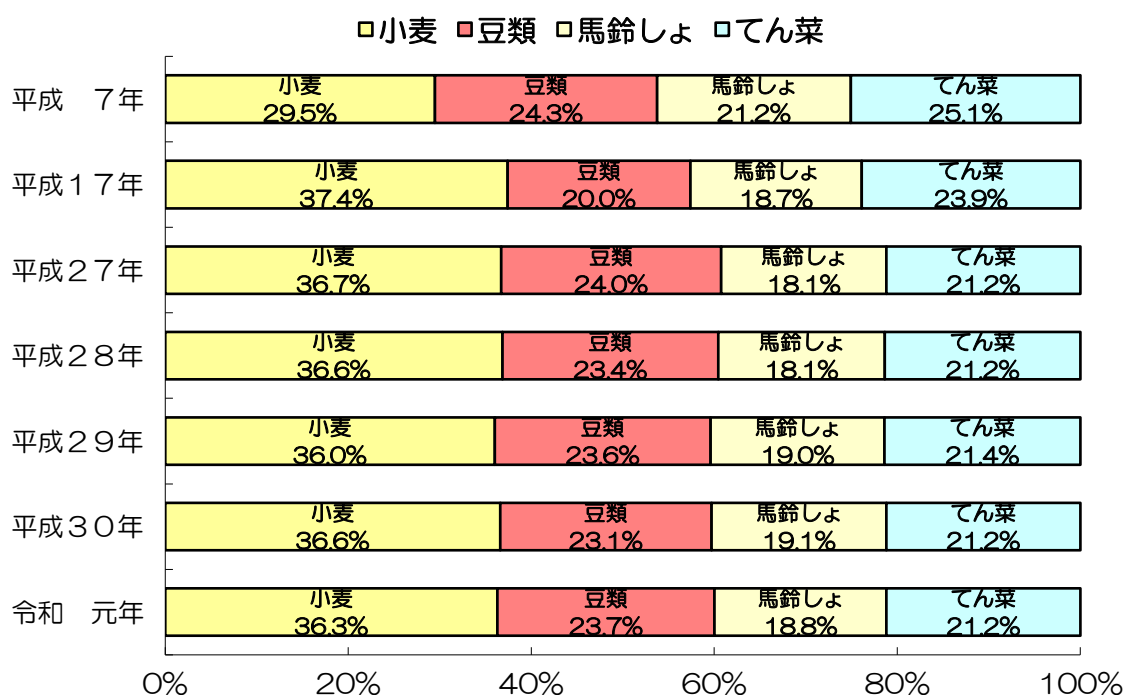
8 農業生産の概要(農産)

畑 作

管内では、小麦、豆类、馬鈴しょ、てん菜の4品を中心とした大規模な畑作経営が展開されている。

近年、経営規模の拡大が進む一方、高齢化、労働力不足などの問題や収益性の面などから、特定の作物の作付偏重による輪作体系の乱れが見られるが、連作障害の防止や実需者からの安定供給の要望に応えるためにも、適正な輪作体系を維持することが必要である。

十勝における畑作4品の作付割合



(農林水産省「作物統計」。ただし豆类(大豆除く)は平成27年は農林水産省「特定作物統計調査」、平成28～令和元年は十勝総合振興局調べ)



【題名：豊作だよ！】

令和元年度とち農・農村フォトコンテスト
人部門優秀賞受賞作品

8 農業生産の概要(農産)

(1) 小麦

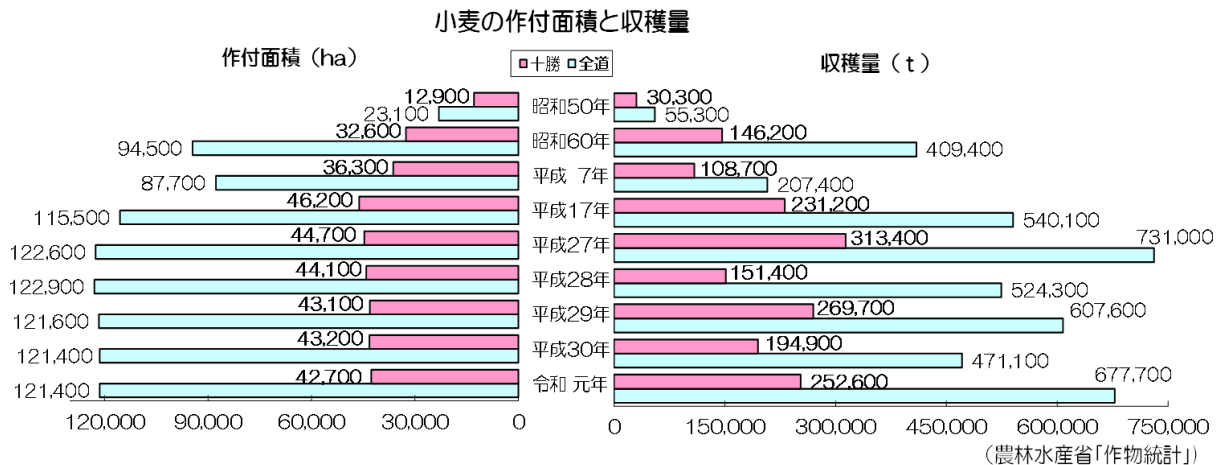
令和元年産の小麦の作付面積は、前年に比べ500ha減少し、4万2,700haとなった。10a当たり収量は、前年産に比べて増加し591kg、収穫量は25万2,600tとなった。

管内で栽培されている小麦は、秋まき小麦（うどん向け中力系品種）がほぼ100%を占めており、品種は、23年産より従来のホクシンからきたほなみに全面切り替えとなった。

一方で実需者からはパン用小麦生産の要望が強くあり、春まき小麦（パン用向け強力系品種）も765haほど栽培されている。

また、24年産からは、中力系品種とのブレンドで優れたパン適性を発揮する超強力系品種ゆめちからも栽培されている。

なお、十勝産秋まき小麦は、各農協等で乾燥、調製された後、主に道外向けは広尾町十勝港にある十勝港広域小麦流通センターのサイロに運ばれ貯蔵されており、都府県への輸送にはバラ積貨物船が使用されている。

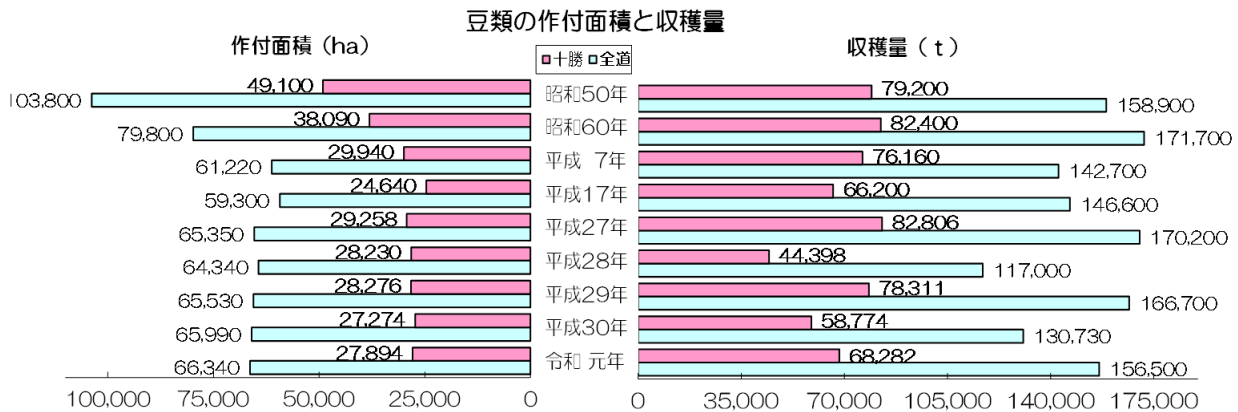


(2) 豆類

令和元年産の豆類作付面積は、大豆、小豆、いんげん合わせて2万7,894haとなった。

本道に占める管内の作付割合は大豆24%、小豆65%、いんげん77%を占めており、道内の豆類生産の44%が十勝管内で生産されている。

令和元年産の収穫量は6万8,282tとなった。



(平成17年以前の数値は農林水産省「作物統計」、平成22年以降は農林水産省「特定作物統計調査」、ただし、平成27年の十勝の数値は農政部農産振興課「麦類・豆類・雑穀便覧」、平成28～令和元年は十勝総合振興局調べ)

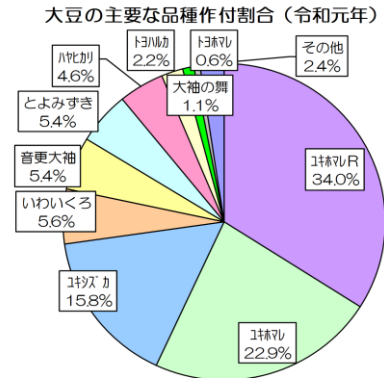
8 農業生産の概要(農産)

○大豆

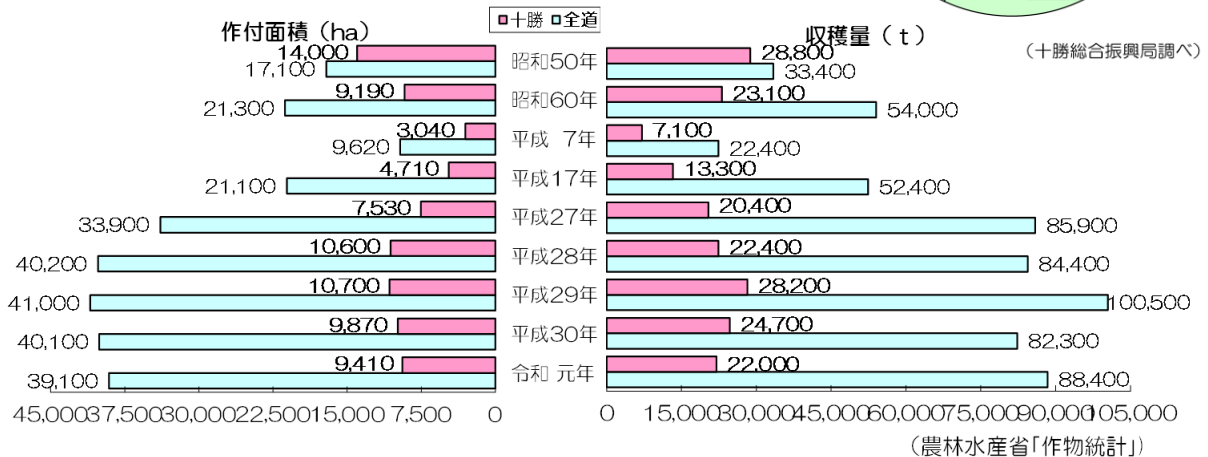
令和元年産の大豆の作付面積は、前年に比べ460ha減少し9,410haとなった。

10a当たり収量は234kgと前年に比べ減少し、収穫量は22,000tとなった。

品種別の作付割合はユキホマレRとユキホマレで5割以上を占め、ユキシズカと続いている。



大豆の作付面積と収穫量



○小豆

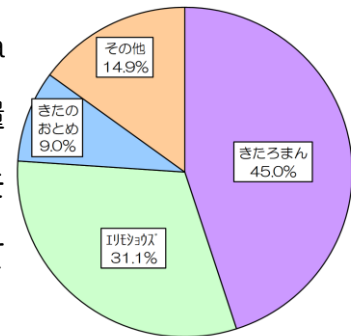
令和元年産の小豆の作付面積は前年に比べ約1,400ha増の1万3,633haとなった。

10a当たり収量は268kgと前年に比べ増加し、収穫量は3万6,569tとなった。

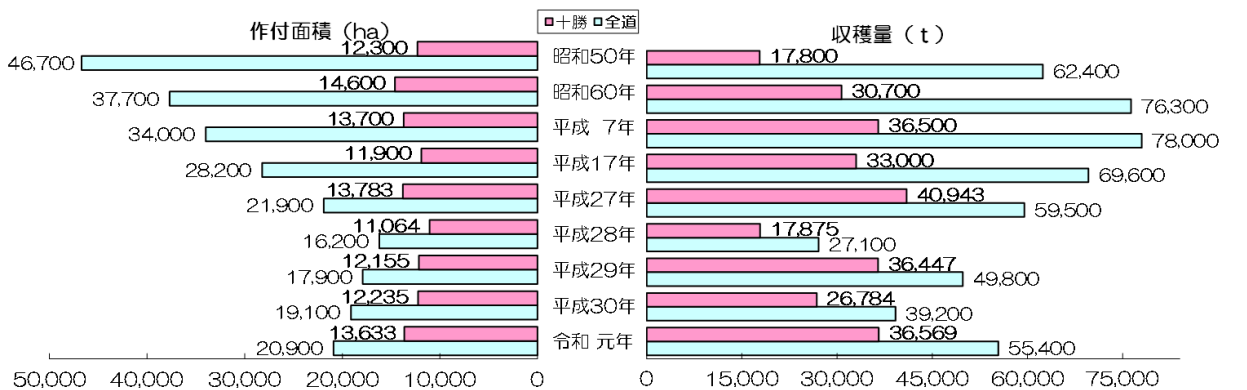
品種別の作付割合は、きたろまんが4割を占め、エリモショウズ、きたのおとめと続いている。

十勝産小豆は品質が良いことから、和菓子の原料として用いられることが多く、このほかには、汁粉、ぜんざい、赤飯での消費も多い。

小豆の主要な品種作付割合(令和元年)



小豆の作付面積と収穫量



(平成17年以前の数値は農林水産省「作物統計」、平成22年以降は農林水産省「特定作物統計調査」、ただし、平成27年の十勝の数値は農政部農産振興課「麦類・豆类・雑穀便覧」、平成28～令和元年は十勝総合振興局調べ)

8 農業生産の概要(農産)

○ いんげん

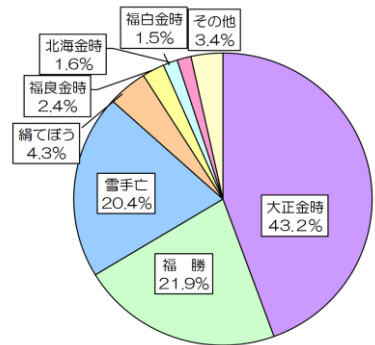
令和元年産のいんげんの作付面積は前年に比べ318ha減少し、4,851haとなった。

10a当たり収量は200kgと前年に比べ増加し、収穫量は9,713tとなった。

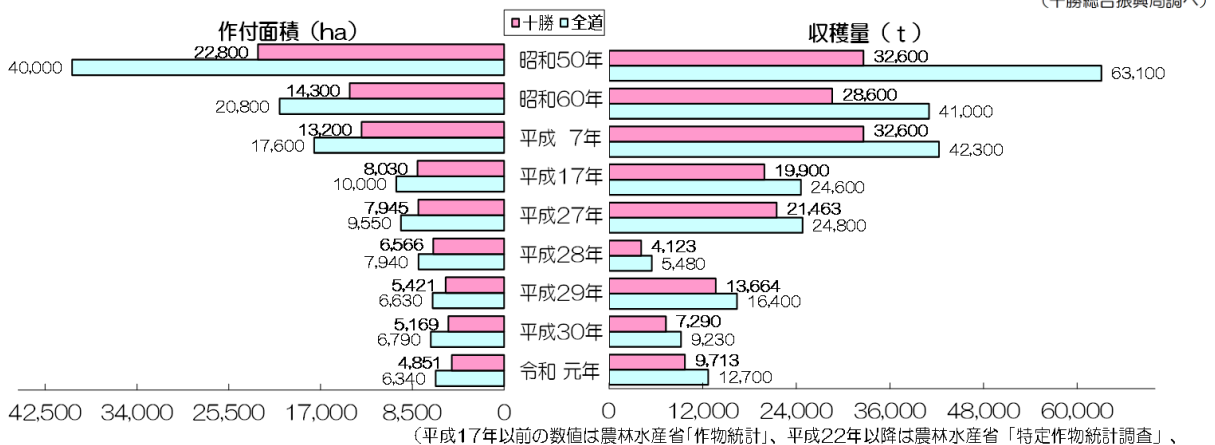
品種別の作付割合は、大正金時、福勝、雪手亡の3品種で約9割を占めている。

金時は主に煮豆、手亡類は白餡に利用されている。

いんげんの主要な品種作付割合(令和元年)



いんげんの作付面積と収穫量



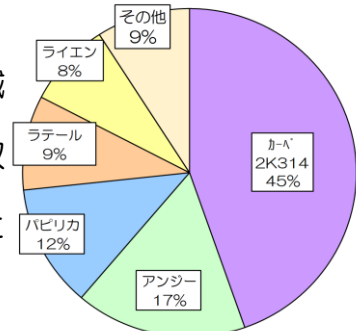
(3) てん菜

令和元年産のてん菜の作付面積は、前年に比べ200ha減少し、2万4,900haとなった。

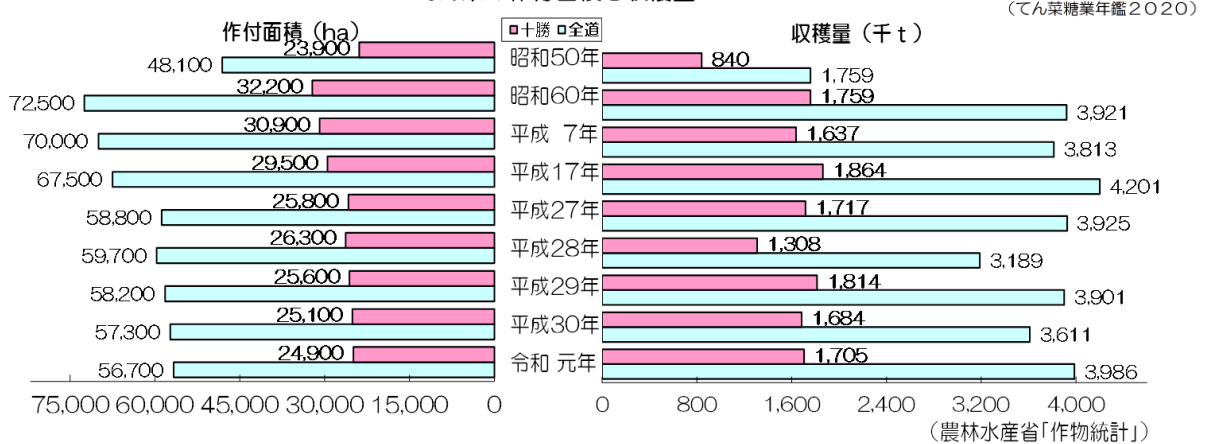
10a当たり収量は6,850kgと前年に比べ増加したため、収穫量も前年より減少し170万5,000tとなった。

てん菜糖は家庭用として使用されるほか、菓子類の原料として用いられている。

てん菜の主要な品種作付割合(令和元年)



てん菜の作付面積と収穫量



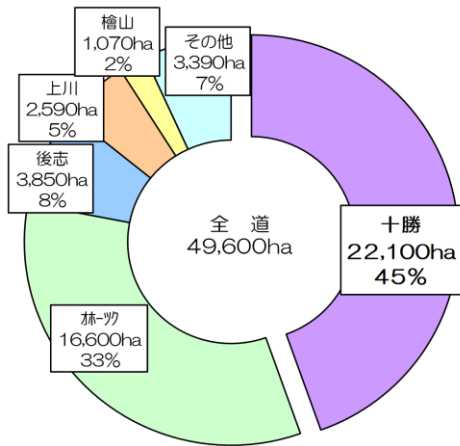
8 農業生産の概要(農産)

(4) 馬鈴しょ

令和元年産の馬鈴しょの作付面積は、前年より500ha減少し、2万2,100ha、単収は前年に比べ増加し、3,700kgとなった。収穫量は81万9,000tとなり、全道に占める割合は、作付面積で45%、収穫量で43%と、ともに全道一位となっている。

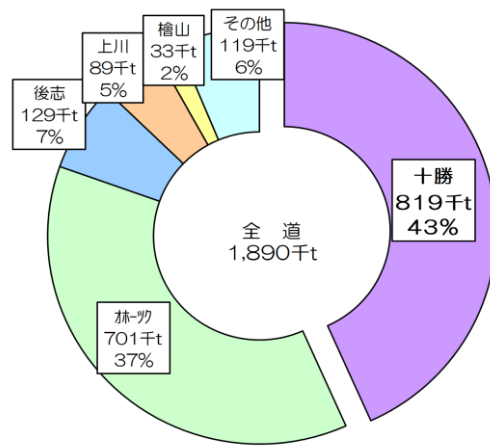
また、令和元年産の管内の用途別作付割合は、生食用26%、加工食品用44%、でん粉原料用20%、種子用10%で、主な品種は、コナフブキ（でん粉原料用）16%、トヨシロ（加工食品用）19%、メイクイン（生食用）14%となっている。

振興局別馬鈴しょの作付面積（令和元年産）



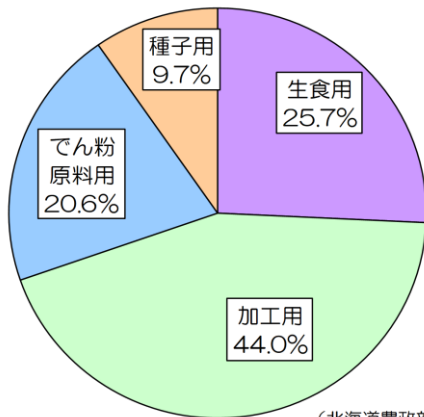
(農林水産省「作物統計」)

振興局別馬鈴しょの収穫量（令和元年産）



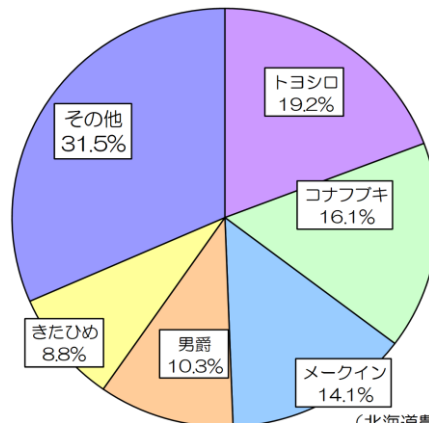
(農林水産省「作物統計」)

十勝管内馬鈴しょの用途別作付割合（令和元年）



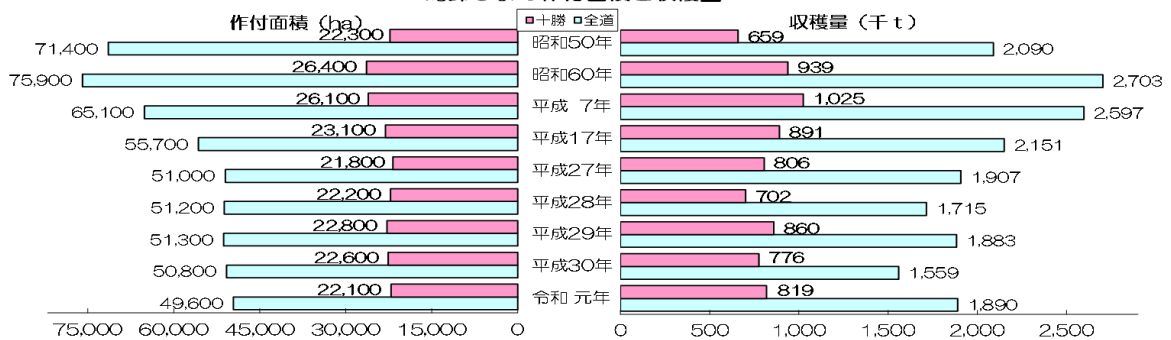
(北海道農政部調べ)

十勝管内馬鈴しょの品種別作付割合（令和元年）



(北海道農政部調べ)

馬鈴しょの作付面積と収穫量



(農林水産省「作物統計」)

8 農業生産の概要(農産)

(5) 野菜

令和元年産の主な野菜（31品目）の作付面積は1万1,348haで、露地野菜を中心に栽培されている。主な品目では、スイートコーンが3,290ha、にんじんが1,453ha、ながいもが1,295haとなっており、これら3品目で全体の約5割を占めている。

また、生産者の所得向上のため畑作4品に加え、新たに野菜を取り入れる地域もあり、JA中札内村及びJA芽室町のえだまめ、JA帯広かわにしのながいも、JA音更町のにんじんなどが有名である。

<生産動向>

・根菜類

令和元年産の主な根菜類の作付面積は、前年より約217ha減少した。
10a当たり収量はだいこんで前年を下回り、ながいも、にんじんで前年を上回った。

・葉茎類

令和元年産の主な葉茎類の作付面積は、前年より約63ha増加した。
10a当たり収量は、キャベツ、たまねぎで前年を下回った。

・果菜類

令和元年産の主な果菜類の作付面積は、前年より約432ha増加した。
10a当たり収量は、スイートコーン、えだまめで前年を下回り、かぼちゃで前年を上回った。

(6) 果 樹

管内は、厳しい気象条件であることから、果樹栽培には向かない地域とされてきたが、近年の温暖化の影響などにより徐々に栽培する環境が整えられてきている。

その中で池田町では、早くから地域の気候・風土に合った品種の開発や栽培方法の改良に取り組み、醸造用ぶどうが栽培されている。

最近では、池田町以外でも個人が自ら醸造用ぶどうを栽培する動きが活発化していると同時に、2019年8月には管内で56年ぶりとなる2カ所目のワイナリーが帯広市に、2020年10月には芽室町にワイナリーが開設されている。

また、バイオマスエネルギー等を活用した果樹栽培など地域独自の取組も増えてきている。



【題名：畑の匠、息ぴったり!!】

令和元年度とかち農業・農村フォトコンテスト
人部門入選作品

8 農業生産の概要(農産)

(7) 花 き

管内では大規模土地利用型農業が展開されているため、花き栽培はあまり盛んに行われていないが、小規模ながら切花、鉢物、花壇用苗物等が栽培されている。

<主な品目>

【切花】

カーネーション、トルコギキョウ、アルストロメリア、デルフィニウムなど

【鉢物】

ペゴニア、シクラメン、ポインセチアなど

【花壇用苗物】

マリーゴールド、サルビア、ペゴニアなど

(8) 水 稲

かつては管内でも水稲栽培が広く行われていたが、現在は大規模畑作経営が中心で、水稲の作付面積は令和元年産で14haとなっている。うち、うるち米が7ha、もち米が7haで、音更町、幕別町、池田町で作付けされている。

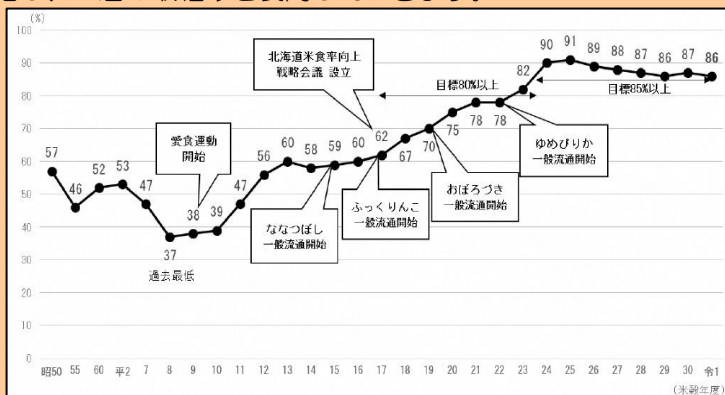
<北海道米食率向上戦略会議の取組>

北海道のお米は、「きらら397」「ほしのゆめ」「ななつぼし」のほか、北海道米のなかでも、味わいを追求した「ふっくりんこ」「おぼろづき」に加え、府県のお米に勝るとも劣らない良食味品種の「ゆめぴりか」が登場し、北海道米の評価は高まってきています。

北海道農業の重要な位置づけとなっている水田農業が、これからも発展していくためには、多くの皆さんにもっと北海道米を食べていただくことが必要です。

そのため、平成17年1月に設置された「北海道米食率向上戦略会議」では、道内食率85%を目指して北海道米のPRに取り組んでおり、令和元米穀年度においては、道内食率が86%となり、8年連続目標を達成しています。

北海道米食率向上戦略会議では、引き続き道内食率85%を着実に維持、加えてお米の消費拡大を目指し、一層の取組みを展開していきます。



令和元年度十勝地区北海道米食率向上戦略会議の取組内容

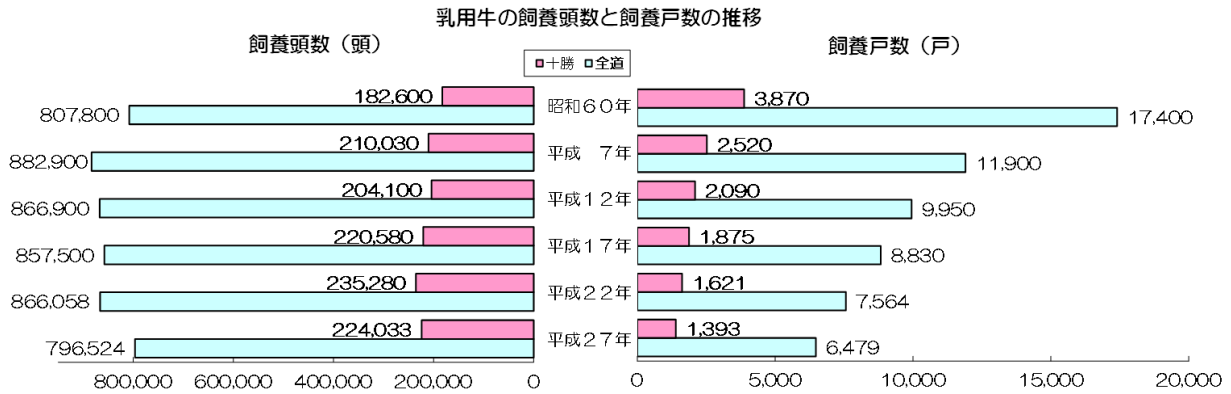
| 取組内容 | 具体的な内容 |
|---------------------------------|--|
| 「北海道米と地物食材で地域を振興！」地産地消と地域振興セミナー | <ul style="list-style-type: none"> 講演「北海道米に切り替えたその時」、「知っておきたいご飯の食べ方」 北海道米3品種の紹介及び食べ比べ 北海道米を使用したお弁当の試食 |

8 農業生産の概要(畜産)

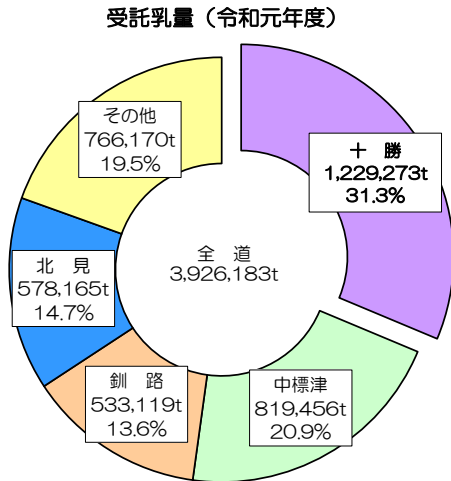
(1) 酪農

酪農は畑作とともに十勝農業を代表する存在であり、乳用牛飼養戸数・飼養頭数、受託乳量ともに全道一を誇っている。

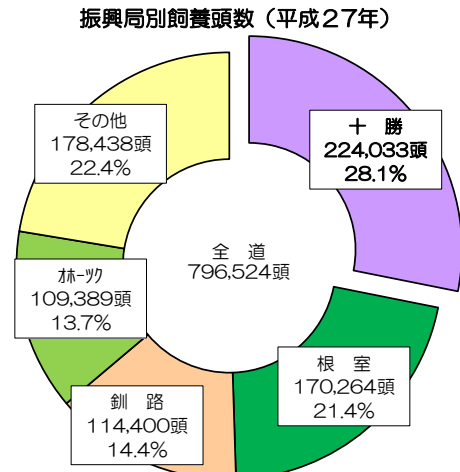
農業者の高齢化等により飼養戸数が年々減少する中、一経営体あたりの飼養頭数は増加している。十勝では、フリーストール牛舎、ミルクパーラーの導入が盛んであり、いずれも全道一の普及率となっている。また、省力化のための搾乳ロボットの導入もここ数年増加しており、管内では99戸（平成31年2月現在道農政部調べ）で利用されている。



(農林水産省「畜産統計」、平成22年は「2010年世界農林業センサス」、平成27年は「2015年農林業センサス」)



(ホクレン農業協同組合連合会 受託乳量)



(2015年農林業センサス)



8 農業生産の概要(畜産)

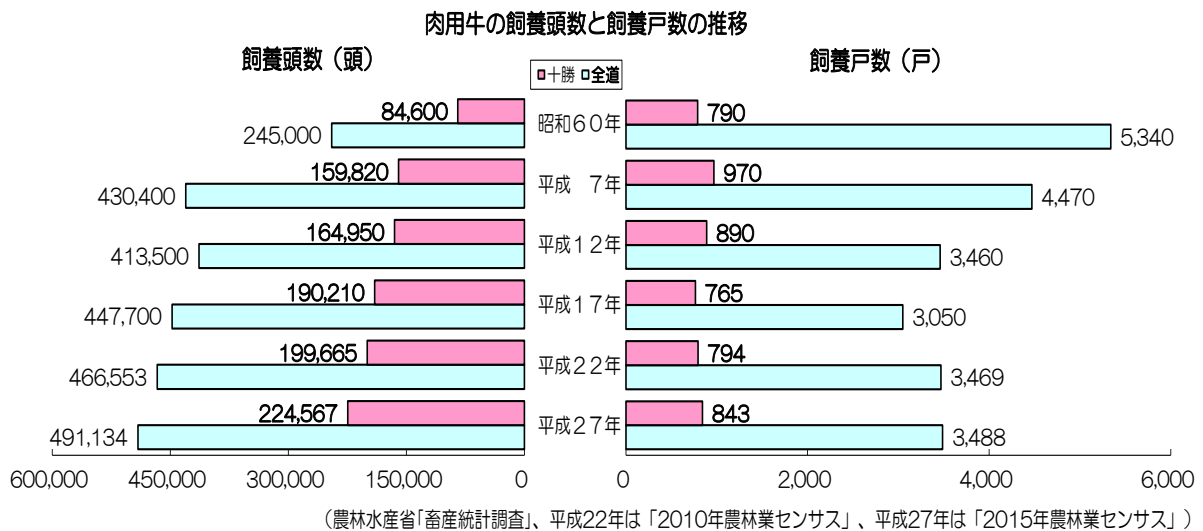
(2) 肉用牛

肉用牛は、畑作、酪農に次ぐ重要な地位を占めており、飼養戸数及び飼養頭数ともに全道一を誇っている。

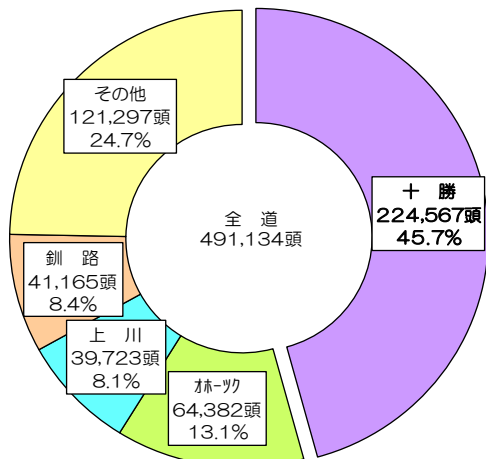
十勝和牛・いけだ牛・十勝若牛をはじめ、地域や団体等で肉用牛のブランド化を進めており、生産現場においては、食の安全・安心はもとより高品質な牛肉の生産が行われている。

平成29年9月に宮城県で開催された5年に1度の「第11回全国和牛能力共進会」においては、全道23頭のうち、十勝管内から14頭が6部門に参加。6頭・3部門で優等賞を受賞、最高順位は優等賞5席となるなど好成績を残している。

また、管内ではホクレン家畜市場と十勝中央家畜市場が家畜の流通の拠点となっている。



振興局別飼養頭数 (平成27年)



(2015年農林業センサス)



8 農業生産の概要(畜産)

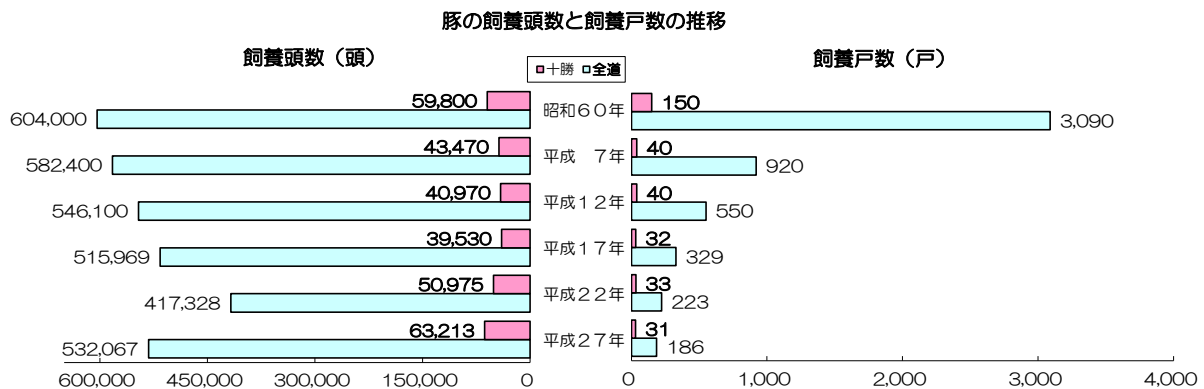
(3) 中小家畜

肉豚の飼養戸数はほぼ横ばい、総飼養頭数は平成27年の調査で大きく増加しており、大規模化が進展している。また、最近では、草地で放牧飼養する「放牧養豚」、チーズ製造時に出る水分（ホエー）を与えて育てた「ホエー豚」、モール温泉を飲ませて育てた「モール豚」など地域ブランド化に向けた様々な取組が進められている。

羊肉生産量は、北海道が全国の約8割を占めており、十勝は道内の主要産地である。近年は、羊肉の提供だけでなく、羊の毛刈りなどの体験や牧羊犬ショー、ファームインの開設など消費者との交流に関する取組も行われている。

採卵鶏は飼養戸数はほぼ横ばい、飼養羽数は減少傾向で推移している。鶏卵は、安全・安心な生産を目指すためにHACCP方針の導入、道産飼料米の活用などの取組が行われている。

また、肉用鶏は、新得町では、（地独）北海道立総合研究機構が開発した北海地鶏Ⅱを「新得地鶏」と命名し、町の新たな特産品としてブランド化を進めている。



(4) 馬

馬は、高度成長期まで農耕用として大きな役割を占めており、昭和28年のピーク時には十勝管内で6万3,527頭が飼養されていた。その後、農作業の機械化、運搬手段の変化等によって活躍の場が少なくなり、平成13年には3,361頭と大幅に減少している。

近年は、ばんえい競馬、馬肉等の需要に対応した改良増殖の促進や技術者、後継者の育成等について、関係団体が取組を進めている。

(注：平成14年以降統計なし)

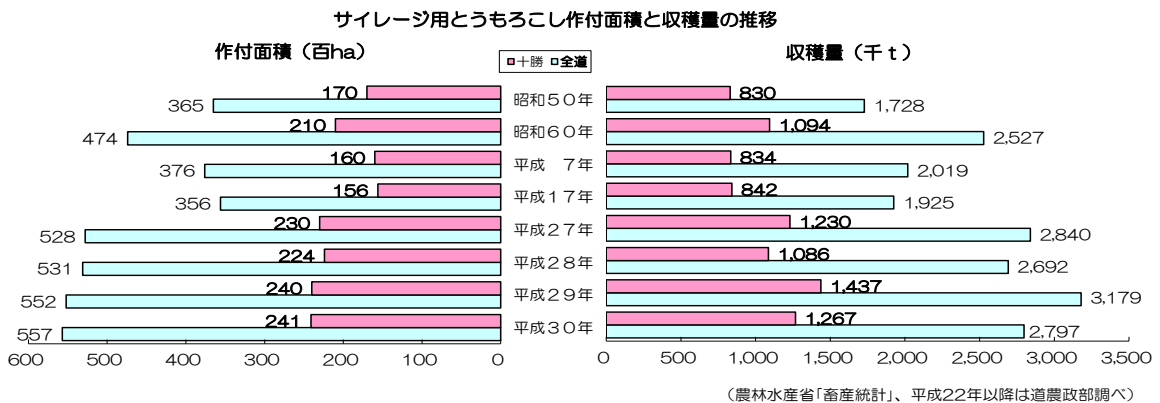
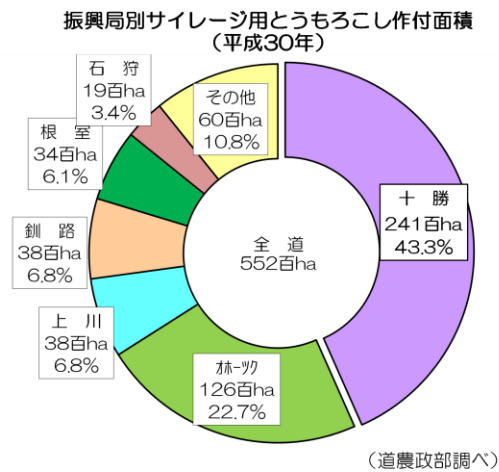
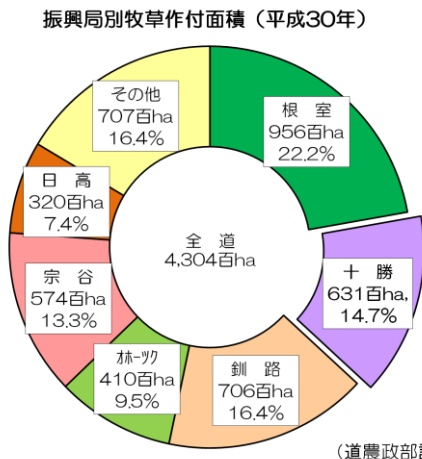
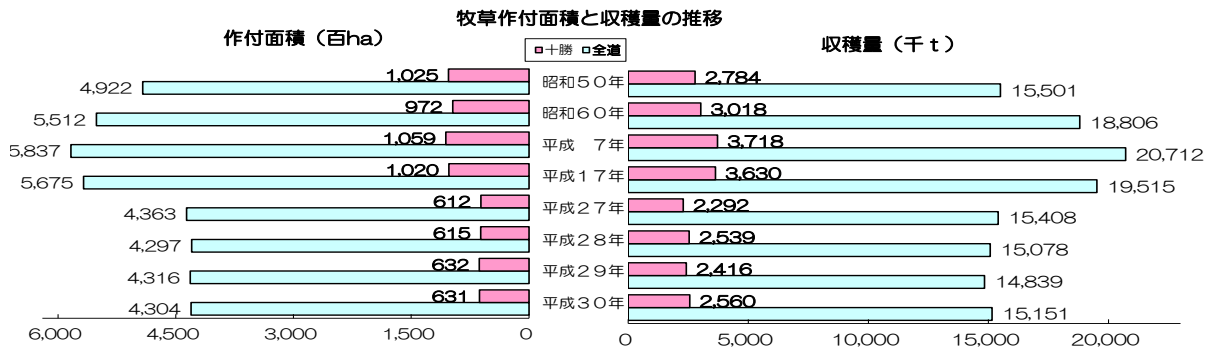
8 農業生産の概要(畜産)

(5) 飼料作物

根釧地域などの草地型酪農地帯と比較して、サイレーシ用とうもろこしの作付が多く、畑作地帯の特色を活かした自給飼料確保を図っている。

飼料価格を左右する海外の穀物相場は今後も不安定な状態で推移することが推測され、配合飼料価格も依然として高止まりの中、飼料自給率の向上対策は、経営への影響を最小限に止める重要な課題となっている。

このため、地域の営農支援組織として重要な役割を担っているコントラクターの強化はもとより、最近では、TMRセンターの取組や集約放牧技術の普及なども進められている。



9 農業農村整備事業

○ 農業農村整備事業

農業農村整備は、農業の生産基盤と農村の生活環境の整備を通じて、農業・農村の持続的発展を図り、「食」の安定供給の確保や農業・農村が有する多面的機能の発揮を目的とする取組である。

1 農業農村整備事業の役割

十勝管内の農業は、農業産出額が耕種部門、畜産部門とも全道第1位となっており、北海道を代表する食料供給地域として重要な役割を果たすとともに地域を支える基幹産業となっている。

この農業生産の根幹を支えているのが、品種改良や栽培技術の向上と排水改良や客土などの土地改良を行う農業農村整備事業である。

管内の農業農村整備では、区画整理や暗きょ排水、水利施設や農道、草地畜産基盤など、農作物の収量の増加や品質の向上、農作業効率を改善させるための整備を地域の要望を踏まえて計画的に進めている。

■ 区画整理（くかくせいり）

大型の農業機械が効率よく作業できるように、農地の傾斜を緩和したり区画を大型化します。これにより、農作業時間を大幅に短縮できます。



■ 暗きょ排水（あんきょはいすい）

畑の土中に管と透水性の高い砂利等を設置し、畑の余剰水を排除します。これにより、作物の生育環境が改善され、収量・品質が向上します。また、畑の水はけが良くなることで、適期の農作業が可能となります。



■ 土層改良（どそうかいりょう）【客土（きゃくど）、石礫除去（せきれきじょきょ）】

畑に良質な土壌を投入したり石礫を除去することで作土の性質を改良します。

これにより、作物の収量増加や品質の向上、農作業効率の改善が図られます。

【客土】



【石礫除去】



9 農業農村整備事業

2 農業農村整備事業の実施状況

管内の耕地面積の約5割は排水不良土壌であることから、明きょ排水や暗きょ排水などの排水改良を主体に、客土や除れきなどの土層改良を水利施設等保全高度化事業（畑地帯総合整備型）等により整備を実施している。

また、全耕地面積の約3割を占める牧草地については、飼料の自給率向上のため、草地畜産基盤整備事業等により整備を実施している。

これらの生産基盤整備とあわせて、農業の近代化・合理化や農村環境の改善に資する通作条件整備（農道整備）、営農用水施設整備等の農村整備事業を実施している。

3 農業農村整備事業の展開方向

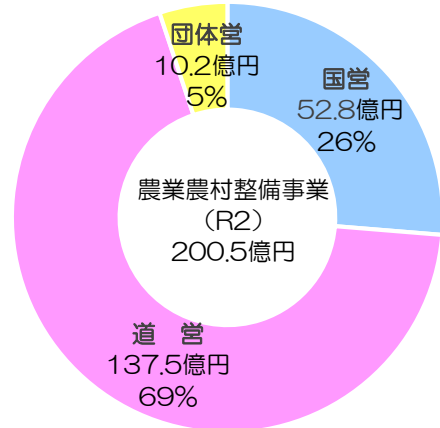
農業農村整備は、安全・安心で高品質な農産物の生産と、それを支える担い手の育成・確保に向けた基盤整備を重点的に取り組むとともに、農村地域の自然環境や景観の保全・再生など、豊かな農村空間の創造を目指している。

農業農村整備事業予算の推移

(単位:百万円)

| 事業区分 | | R1年度予算 | R2年度予算 |
|------|----------------|--------|--------|
| 国 営 | かんがい排水・直轄明渠排水等 | 7,910 | 5,280 |
| | 農地再編 | 0 | 0 |
| | 小 計 | 7,910 | 5,280 |
| 道 営 | 農地整備等 | 10,870 | 13,606 |
| | 水利施設整備 | 170 | 145 |
| | 防災減災 | 100 | 0 |
| | 小 計 | 11,140 | 13,751 |
| 団体営 | 団体営農業農村整備 | 1,351 | 1,020 |
| | 小 計 | 1,351 | 1,020 |
| 合 計 | | 20,401 | 20,051 |

前年度補正予算を含む。



■排水路整備



■草地畜産基盤整備



■通作条件整備



■畑地かんがい整備



10 農畜産物の加工

(1) てん菜製糖

管内には3つの製糖工場があり、10月中旬から24時間操業で、道内の42%に当たる166万6千tのてん菜を処理し、26万7千tの砂糖を生産している。

工場別原料集荷量と砂糖生産量（令和元年産）

| 工場名 | 原料処理量t | 砂糖生産量t (うち原料糖) | | 歩留% | 截断期間 | 製糖期間 |
|----------------|-----------|------------------|------------------|-------|------------|------------|
| | | 166,500 (45,037) | 166,500 (45,037) | | | |
| 日本甜菜糖業(株)芽室製糖所 | 1,020,226 | 166,500 (45,037) | 166,500 (45,037) | 16.32 | 10.12~2.8 | 10.12~4.21 |
| ホクレン清水製糖工場 | 331,433 | 53,220 (6,831) | 53,220 (6,831) | 16.06 | 10.18~2.24 | 10.18~2.25 |
| 北海道糖業(株)本別製糖所 | 314,524 | 47,505 (9,124) | 47,505 (9,124) | 15.10 | 11.27~3.27 | 11.27~3.29 |
| 合計 | 1,666,183 | 267,225 (60,992) | 267,225 (60,992) | | | |

(北海道農政庁農産振興課調)

- ・原料糖：本州の製糖メーカー原料として販売するもの。
- ・原料糖数量は砂糖生産量の内数である。

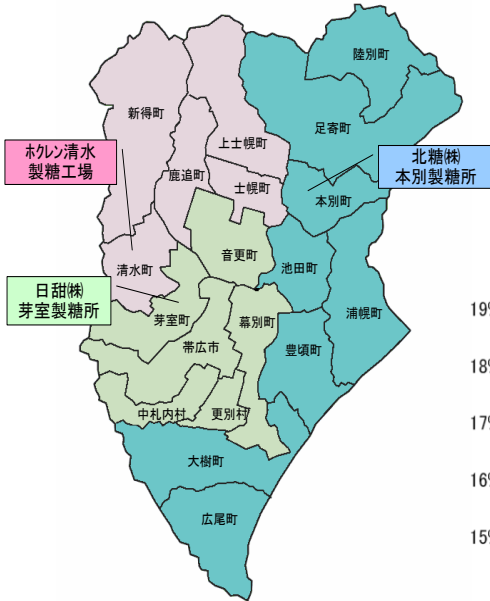
工場別原料集荷量と砂糖生産量（平成30年産）

| 工場名 | 原料処理量t | 砂糖生産量t (うち原料糖) | | 歩留% | 截断期間 | 製糖期間 |
|----------------|-----------|------------------|------------------|-------|------------|------------|
| | | 173,700 (52,765) | 173,700 (52,765) | | | |
| 日本甜菜糖業(株)芽室製糖所 | 1,010,918 | 173,700 (52,765) | 173,700 (52,765) | 17.18 | 10.14~2.9 | 10.14~4.19 |
| ホクレン清水製糖工場 | 341,668 | 56,800 (10,699) | 56,800 (10,699) | 16.62 | 10.19~2.22 | 10.19~2.22 |
| 北海道糖業(株)本別製糖所 | 331,606 | 55,610 (9,625) | 55,610 (9,625) | 16.77 | 10.17~3.2 | 10.17~3.4 |
| 合計 | 1,684,191 | 286,110 (73,089) | 286,110 (73,089) | | | |

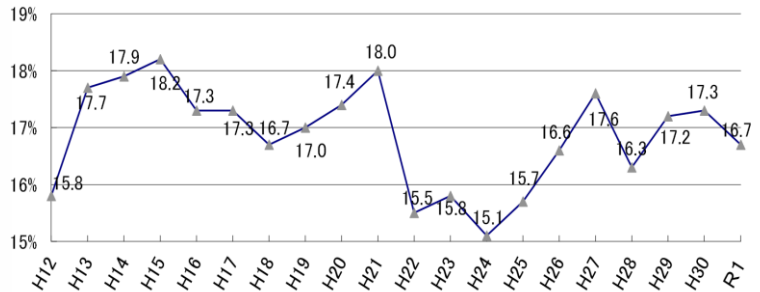
(北海道農政庁農産振興課調)

- ・原料糖：本州の製糖メーカー原料として販売するもの。
- ・原料糖数量は砂糖生産量の内数である。

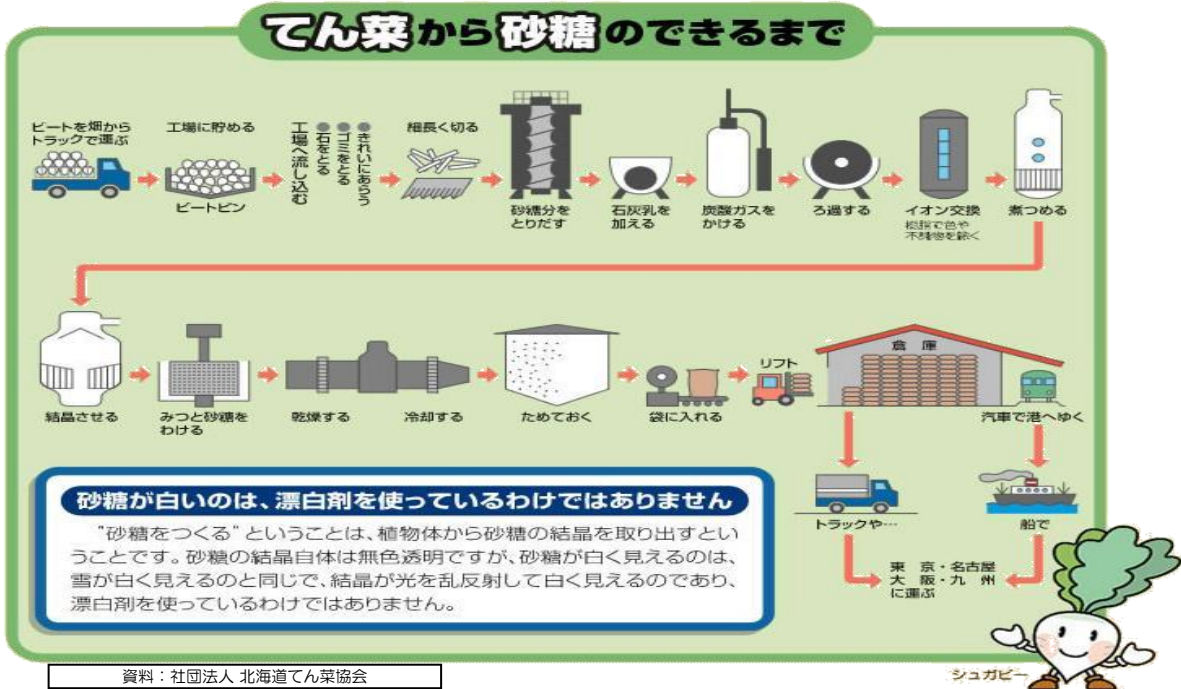
製糖工場の位置と原料の集荷区域



十勝管内てん菜の糖分推移



(令和元年産てん菜の生産実績(てん菜糖業年鑑)より)



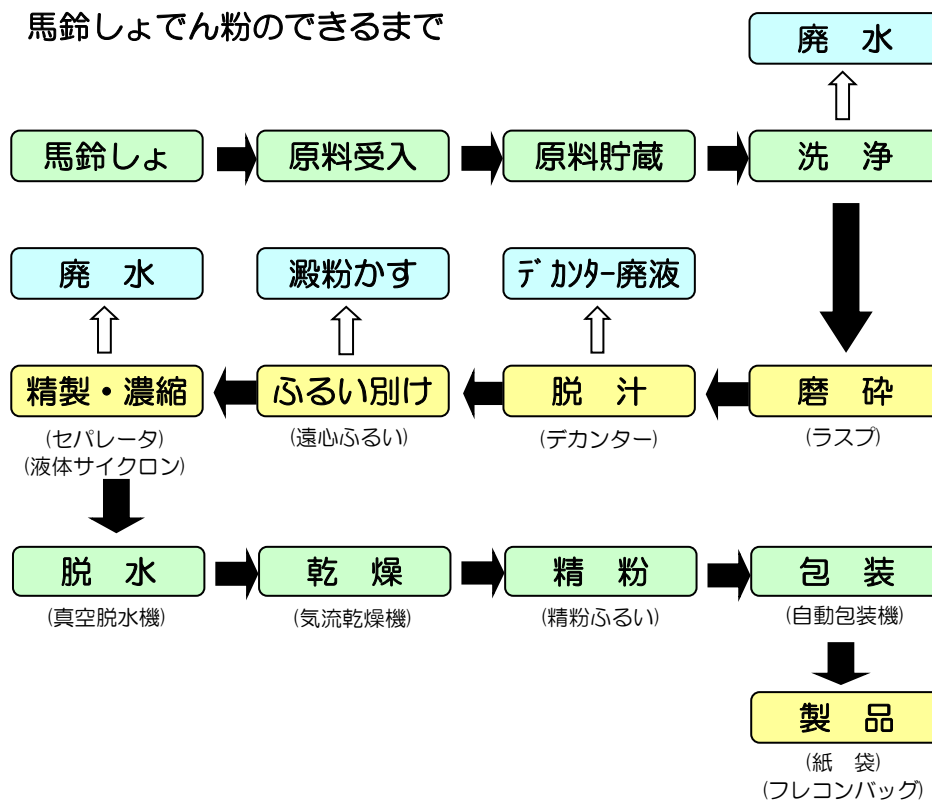
10 農畜産物の加工

(2) 馬鈴しょ加工

□ でん粉原料用

管内のでん粉工場では、8月下旬から12月上旬の期間で、令和元年産では、約4万9千tのでん粉を生産している。

なお、でん粉工場は、平成11年と13年に製造コストの低減を図るため合理化、省力化に向けた再編整備を行い、2工場が廃業し、現在では農協系3工場と商系1工場の4工場が操業している。



□ 加工食品用

管内の馬鈴しょ生産量のうち令和元年産では32万8千tの原料が加工食品用に向けられており、加工メーカーに供給される工場を設置し、ポテトチップ、フレンチフライ、コロッケなどの製造を行っている。

ポテトチップ用には、トヨシロ、きたひめ、フレンチフライ用には、ホッカイコガネ、コロッケ用には、男爵いもが主に利用されている。

□ 管内の主要な馬鈴しょ加工

- JA土幌
ポテトチップ、フレンチフライ、コロッケ
- ジェイエイめむろフーズ(株)
フレンチフライ、サラダ
- カルビーポテト(株)
じゃがりこ、ジャガビー、マッシュポテト

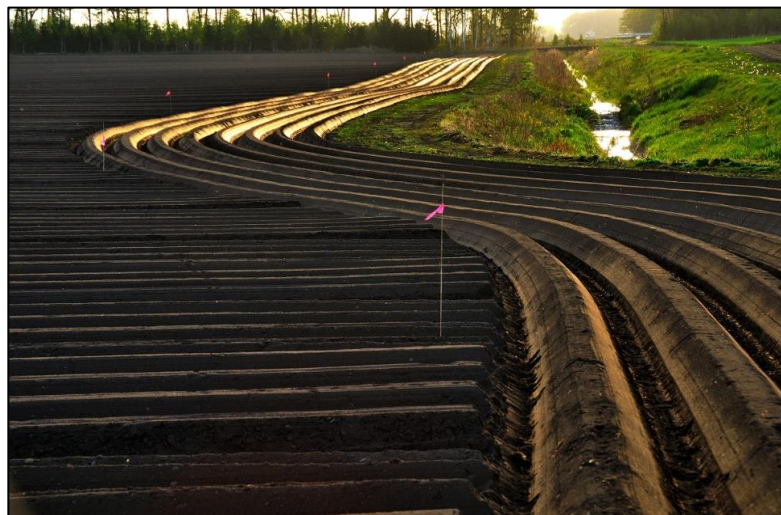
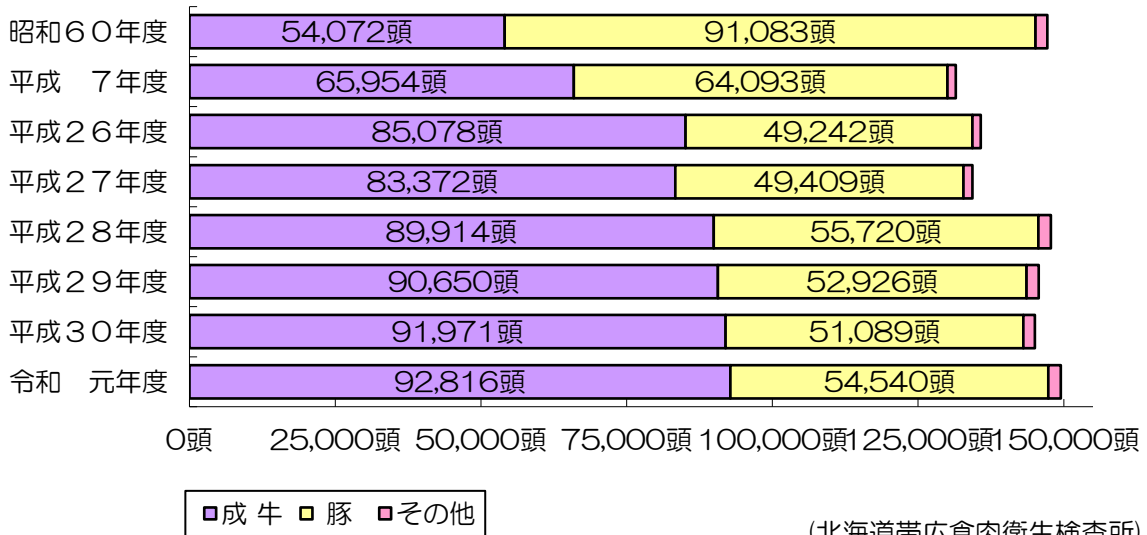
10 農畜産物の加工

(3) 食肉処理加工

株式会社北海道畜産公社十勝工場十勝総合食肉流通センターは、昭和54年に設立。現在は、第1・第2及び第3工場を合わせて1日の牛の処理能力が450頭と、国内最大レベルのと畜場であり、十勝管内の畜産振興と食肉流通の基幹施設として重要な役割を担っている。

HACCPに基づく衛生管理体制のもと、安全で安心な高品質の食肉加工が実施されており、第3工場が令和元年5月に道内初の食肉の米国輸出が可能な施設として国から認定されるなど、十勝産をはじめとする道内産牛肉の世界的な輸出拡大が期待される。

十勝総合食肉流通センター処理頭数の推移



【題名：川の流れるように】

令和元年度とち農・農村フォトコンテスト
 景観部門優秀賞受賞作品